

新しい百年に向けての 基盤づくりに取り組みます

平成16年度の市政を運営するための当初予算案がまとまり、3月1日から開かれた3月定例市議会に關連の条例とともに上程されました。
光武市長は、総額862億9,723万円の平成16年度一般会計当初予算案など54議案の提案理由を説明し、新年度の施政方針を語りました。(当初予算の説明は5月号に掲載します)



佐世保市街地遠望(弓張岳方面から)



大勢の来場者が炭火焼を楽しんだ「九十九島かき食うカキ祭り」

施政方針を語る光武市長

平成16年度施政方針(要旨)

市政推進の基本

平成14年度市制百周年事業を終え、昨年は新しい百年の初年度を力強く踏み出しました。また、私にとっても、昨年春の統一地方選挙により、市民の皆さまの温かいご支援を賜り、3期目の市政運営を委ねられた年でもありました。任期中の9年間、市政を取り巻く内外の情勢は厳しいものがありましたが、「住みたい街 佐世保」の実現に向けて邁進してまいりました。特に昨年度は、佐世保駅周辺再開発事業が仕上げの段階に入るとともに、「佐世保市の教育を考える市民会議」の提言の具体化、吉井町、世知原町との法定合併協議会の設置など、新しい街づくりの胎動が始まっています。

本市財政も景気低迷などにより財源不足は避けられない状況であり、一方では、子育て環境の充実、健康に暮らせる社会の構築、教育の再生、観光を中心とした産業活性化、安全・安心して暮らせる社会の構築、自然と共生できる社会の構築、市民協働の基盤づくり、説明責任を果たす市政の確立など多くの政策課題に適切に対処しなければなりません。

このため、これらの分野について重点的に財源を配分し、財源配分方式と行政評価の活用による事務事業の見直しとコスト削減を行うことにより歳出全体を厳しく見直し、歳出構造の改善に努めました。

重点的な施策

5つの「まちづくりの基本目標」とそれにつながる7つの柱を基調に推進していきます。

すべての人がいきいきと生活できる「暮らしづくり」

保健・医療・福祉の充実と地域づくり

介護保険は、施行後5年をめどに見直される国の抜本的な制度改革を見据えながら、さらに充実を図ります。障害者施策は、「市障害者プラン」に基づき、障害のある人が安心して生活できるような体制の整備に努めます。子育て支援については、少子化対応施策を推進するとともに、育児と就労を両立させるための施策の充実に努めます。

さまざまな文化との出会いによる「人づくり」

教育・文化の充実
学校教育では、2学期制の導入に向け取り組みます。また、「特色ある学校づくり対策事業」や「学力充実実践事業」、「特別支援教育指導員派遣事業」などに取り組みます。幼児教育では、「幼児教育センター」での事業などの充実に努めます。「学社融合事業」では、家庭、学校、地域が協働して取り組む通学合宿などを実施します。
「佐世保市の教育を考える市民会

議」からの提言を実行に移すため策定した「教育を考える市民会議提言」にかかる推進計画書」に基づき、さまざまな施策を実施し、「教育都市佐世保」の実現を目指します。
文化行政では、文化的な環境づくりとして、アルカスSASEBOなどの文化施設を活用した鑑賞機会の充実や創造活動の推進を図ります。また、近代化遺産や埋蔵文化財の保護・活用などに努めます。

新たな価値を生み出す「仕事づくり」

地域経済の活性化
中小企業の経営安定やバランスの取れた産業構造への転換に対する支援に取り組めます。そのために、融資制度の充実や新製品・新技術の開発のための支援、起業家支援センターにおける新事業創出のための支援を行います。また、企業誘致、観光の振興、緊急地域雇用創出事業などによる雇用の創出を図ります。
ハウステンボスについては、新たな支援企業が選定され再生への期待が高まっていますが、今後とも九十九島と連携させながら、佐世保観光の発展を目指します。本年度を西海国立公園指定の「プレ50周年」と位置付けて、知名度の向上と集客増を図ります。また、「佐世保観光コンベンション協会」が主体的に行う事業を支援しながら、観光客やコンベンションの誘致を推進します。

農業については、自立できる農業の確立を目指して、生産体制の強化に努め、併せて特産品の銘柄確立と販売体制の強化を図ります。また、畜産業では、関係機関と連携して、家畜の防疫体制の強化に努めます。

多彩な交流を支える「街づくり」

生活の安全確保
防災体制の充実強化のため、急傾斜地崩壊や河川氾濫などの自然災害に対して、今後も防災事業の促進に努めます。

自然環境の保全と生活環境の整備
環境循環型社会への転換を図るため、事業系ごみの減量化・資源化対策などを強化するとともに、家庭系ごみは、経費負担の公平を図るため、ごみ有料化制度を促進するなど、ごみ減量化・資源化を推進します。
水資源の確保については、下の原ダムの高上げを、平成18年度完成を目指して取り組んでいます。抜本的な解決策としては、石木ダム建設が不可欠であり、地元の皆さまに粘り強くご協力をお願いし、早期着工に向けて努力を重ねていきます。

交通体系の整備と市街地・港づくり
西九州自動車道は、佐世保道路の干原町から矢岳町間と、佐々佐世保道路の矢岳町から佐々町間の各区間で、用地買収などが進められ、一部着工されました。

佐世保駅周辺再開発事業は、土地

区画整理事業が平成16年3月末に完成。三浦地区では埋め立ても完了し、土地利用について、分譲の具体的な対応を進めます。

市民と共に築くまちづくり

市民参加と質の高い行政の実現
市民の皆さんと共に考え、共に組み立てていくことそのものが、「市民協働」であるとの認識に立ち、NPO(民間非営利団体)やボランティアなどの市民活動を活性化し、市民と行政とのパートナーシップを確立していきます。

地域における情報化と行政事務の効率化の推進については、電子自治体構築を計画的に推進していきます。
市町村合併については、ことし1月「佐世保市・吉井町・世知原町合併協議会」を設置しました。今後は平成16年度中の合併実現に向けた準備を行っていきたくと考えています。

基地問題

前畑弾薬庫の移転・返還をはじめとする新返還6項目の推進や、これらのことを含む佐世保港のすみ分け問題については、本市の最優先事項の一つとして取り組んでいきます。

平成16年度の政府予算案では、ジュリエット・ベースンでの新たな岸壁整備工事などに要する経費や、佐世保地区の移転集約構想に調査費などが盛り込まれ、本格的な動きが始まりつつあります。